

消防 **団** ネット in 川口

臨時増刊号

平成27年1月31日

第39号

KAWAGUCHI SHOUBOUDAN NEWS

発行者 川口市消防団活性化対策推進本部

消防団長 金子 利夫

発行所 川口市消防局消防総務課消防団事務局

電話 048-261-8102

団長年頭挨拶

川口市消防団長 金子利夫

明けましておめでとうございます。

団員の皆様には平成二十七年の輝かしい新春を迎えた事と心よりお喜び申し上げます。

さて 昨年、全国各地では多くの自然災害が発生し、多大なる被害を出しました。そんな中、一昨年 十二月には国会において『消防団を中核とした地域防災力の充実強化』の法律が可決され、市民の防災に関する関心が高まり、消防団への期待もさらに高まっています。

私共消防団員は市民の負託に応えるべく本年も更に日々研鑽を重ね、市民の安全安心確保の為、一生懸命頑張ってまいりたいと思います。

団員の皆様には、本年も健康に十分に注意され、市民の為 地域の為に一致団結して頑張ってまいりたいと思いますので、よろしくご協力お願いいたしまして新年の挨拶といたします。



おかめ市消防特別警戒

第2支団第2分団 班長 若林英治

12月19日（金）に恒例の飯塚氷川神社の熊手市が開催され、第2支団が巡回警戒を行いました。前回はいにくの雨で少々寂しい人出でしたが、今回は穏やかな陽気に恵まれ、ピークの夜7時半頃には身動きが取れないほど多くの人で賑わっていました。

往復で900mほどを何度も巡回し、事件・事故なく終えることができました。



鳩ヶ谷おかめ市消防特別警戒

第10支団第1分団 団員 花岡 巖

去る12月23日、鳩ヶ谷氷川神社おかめ市開催に際し鳩ヶ谷地区の第10、11支団により特別警戒を実施。鳩ヶ谷分署にて警戒本部開所式の後、各分団車庫で午後10時まで警戒。鳩ヶ谷氷川神社おかめ市は大正時代から続く風物詩。神社境内で縁起熊手が売られ、周辺には露天商が出店。川口市と旧鳩ヶ谷市の合併後、消防団で警戒することが恒例になっている。



はたちの集い広報

第11支団第3分団 班長 加藤耕誠

「成人としての防災意識をもって振袖姿でハイ敬礼！」
新年を迎えた1月12日晴天の中、川口市では平成26年度はたちの集いが開催されました。今年市内の新成人は5,878人、そのうち3,800人余りがリリアに集まり会場は溢れかえっていました。消防団では防災意識向上と団員募集のPRを兼ねて恒例のアンケートと肉まん&あんまんが振舞われました。振袖であんまんをニコニコと頬張る姿が印象的で、アンケート用紙が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。新藤前総務大臣が「皆さん本人は成人の自覚がまだ無くても成長した我子にご両親は感慨深いものでしょう、私もそうでした」と挨拶されていましたが、私も会場に来た3男を見て同じ思いを抱きました。本当におめでとう！



平成27年度川口市震災消防演習

第11支団第3分団 班長 加藤耕誠

実施日、1月17日は阪神・淡路の震災からちょうど20年の節目の年、先日式を終えた新成人が生まれた頃である。鎮魂の思いを抱きつつ、あの時の災害の恐ろしい記憶を風化させないように我々は訓練に臨んだ。団としても初めての試みの訓練であるため慣れないことも多々あるが、朝8時M7.3の直下型地震が首都南部を襲ったことを想定して訓練を行った。

我々分団員は8時の地震発生とともに周囲の状況を確認しながら



分団車庫に参集した。団員各々の状況の確認報告を受けながら消防車に資機材を積み込み被害に備えた。電気ガスなどのライフライン、携帯電話なども使えない状況の想定での無線のみによる連絡は火災以上に情報が錯綜し、普段の状況ではあまりないためこのような訓練は必要である。我々11-3分団は車庫から芝川・新芝川の水門が近いことから自己防衛に配慮しつつ、徒歩部隊で川の状態を確認に向かった。実際の被害の状況から判断し何を優先するのかなど課題も多い。またこのような訓練をすることによって課題がみえてくる。今後の訓練内容としては、専門家による状況の想定や指導、実際に被災された方の経験を踏まえた訓練が望まれるだろう。このような訓練はたいへん有意義でその重要性は高いと思う。

支団紹介

7支団の紹介です

第7支団第1分団 団員 塩野孝夫



行っております。

今後とも精鋭、精強である第7支団はより一層の努力を重ね、多様化する任務を達成すべく日々くんに臨み市民の皆様の生命財産を守るため活動をしていきたいと考えます。

第7支団は現在、矢作支団長以下47名の団員で神根地区を担当地区として日々、地域防災活動に取り組んでいます。支団は市民のみなさまの付託に応えるべく日夜教育訓練に励み、多様化する消防団の任務への即応態勢に万全を期しています。

あわせて自治体などが主催する防災訓練の参加及び各町会の夜警、体育大会などの行事協力などを地域社会と一体となった防災基盤の充実、発展を目指して

みんな知ってる？

川口市 高度救助隊

第4支団第1分団 団員 田村真一

今年度4月に川口市にも高度救助隊が発足されました。大規模震災、災害が発生した時には、消防団と消防署隊は車の両輪の如く活動します。消防団員は片輪である署隊の車両や装備を知っていてこそ両輪がうまく回るのだと思います。

そこで今回は、わが街の高度救助隊について特集します。

少し前までは、救助隊と特別救助隊しかありませんでした。そして各消防本部や地域によって装備や救助レベルも差があったのです。しかし、新潟県中越地震、

阪神淡路大震災などが発生し、消防力強化が言われる様になりました。そこで、高度救助隊と特別高度救助隊が新設されることになりました。川口市では東日本大震災を契機に、これから来るであろう首都直下地震において市民を守るべく高度救助隊を発足することとなったのです。

川口市にはすでに特別救助隊がありますが、火災や一般救助



のほか、核、生物、科学災害、テロなどに対応した資機材を装備しています。

高度救助隊は、火災や一般救助のほかに大規模震災、災害に対応できる救助部隊です。資機材も特殊な装備を持っています。瓦礫の中から人を探し出す画像探索機や音響探知機、二酸化炭素探査装置、電磁波探査装置、暗闇や煙の中でも人を探せる暗視ゴーグルや熱画像直視装置、震災での活動時に二次災害を出さないための地震警報器などです。



電磁波探査装置



二酸化炭素探査装置



装備全体

高度救助隊は県内外の大規模災害において、緊急消防援助隊の要請があると応援出動します。川口から援助隊が派遣できるのは誇りですね。

次回の特集では、ロゴ、愛称、法的根拠について、高度救助隊長さんへのインタビューや訓練の様子などを取り上げられたらいいなと思っています。お楽しみに。

消防団員のお店紹介

取材 第10支団第1分団 団員 花岡 巖

消防団員のお店紹介という企画の第2弾です。

団員さんのお店・会社を紹介するかわりに、利用する団員さんに対して特典を提供していただくという内容です。お店の活性化のためにぜひご利用ください。ご希望の方は各支団の広報委員さんまでお願いします。お店まで取材に伺います。

今回は鳩ヶ谷の老舗の鰻屋さんの紹介です。

割烹・うなぎ 湊家

(第10支団2分団 団員 小谷圭三)

からくり時計のある鳩ヶ谷御成り坂公園に隣接する湊家は創業1810年。江戸時代には旅籠料理屋を営んでいた歴史を持つ鰻店です。ご会食、ご宴会、ご法要に、テーブル席、個室、大広間とご目的に応じてご利用出来ます。ご予算、ご希望等ご相談下さい。



【消防団員特典】

★鰻重（お吸い物お新香付）は2700円（税別）で消防団の方にはデザートサービス。

★宴会コースはお料理5000円～。15名以上の消防団のご宴会には焼酎ボトルサービス。

川口市鳩ヶ谷本町1-1-12

電話 048-281-2349 11:00～14:00 17:00～20:30（ラストオーダー）火曜日定休

消防団特別点検

前号で掲載しきれなかった写真を紹介します。



ナレーションの第2支団 渡邊さん



合唱隊



手帳点検



手帳点検



車両点検



第1支団 操法隊員



第2支団 操法隊員



第3支団 操法隊員



第4支団 操法隊員



第10支団 操法隊員



第11支団 操法隊員

新入団員紹介

新入団員の皆様を順次紹介しています。対象者は入団して1年未満の方々です。ご希望の方は各支団の広報委員までよろしくお願いします。

第1支団第1分団 団員 杉山宣枝(すぎやまのぶえ)

平成26年10月1日付で第1支団第1分団に入団いたしました。

私は、川口市本町生れの本町育ちであり、少しでも地域の皆様のお役にたてればと思い入団を決意しました。訓練を通じ、現場で実践できる火災消火や人命救助について学ぶとともに様々な会合にも積極的に参加し、地域での交流を大切にしていきたいと思えます。

自らの町を自らで守ることを忘れずに活動してまいりますので、今後とも温かいご指導をよろしくお願いいたします。



3支団第2分団 団員 及川幸泰 (おいかわゆきひろ)



自分は川口生まれ川口育ち、現在は生まれ育った地元で自営業を営んでおります。

先輩から声をかけていただいたのがきっかけで、地元を大切に地域の役に立ちたいと思い入団いたしました。よろしくお願いします。

.....

【編集後記】

第4支団第1分団 団員 田村真一

今回の団ネットは、お正月ふさわしいボリュームになりました。今回、特集を組ませていただきましたが、我が街の消防について知ることには自己啓発の一環だと思います。今後も全力で記事を書いて行きます。



次号は3月31日 発行予定です